

Hiroshima-Austria Association

NEWSLETTER



2022

Vol. 45

広島オーストリア協会 会報

Dear Members, 

2022年9月30日発行
編集・発行 広島オーストリア協会
〒730-8552 広島市中区白島北町19番2号
広島ホームテレビ総務局内
TEL(082)221-4964 FAX(082)221-4905



ウィーン旧市街の街並み
撮影：広島ホームテレビ 山口 和政

ご 挨拶



広島オーストリア協会
会長 三吉 吉三

会員の皆様方には、平素より広島オーストリア協会の活動に、ご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年度は一昨年に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、すべての行事を中止させていただきました。また、今年の総会も参集を中止し、7月に書面決議を行いました。

しかしながら、行動制限も解除され、第7波も収束に向かっていることから今秋より徐々に活動を再開いたします。11月にはオーストリアに所縁のある作曲家の名曲が演奏される広島交響楽団のコンサートの鑑賞優待、更に12月には3年ぶりにクリスマス例会を開催いたします。皆様の前であらためて会長就任のご挨拶をさせていただきますので、是非ご参集いただきたくお願い申し上げます。

8月にはシュテファン・ハイスラー駐日オーストリア公使にもお会いし、今後も交流を深め、広島とオーストリアの相互理解や友好親善の輪を広げていくことをお互いに確認いたしました。心持ちも新たに広島オーストリア協会の活動を充実させて参りますので、引き続きご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



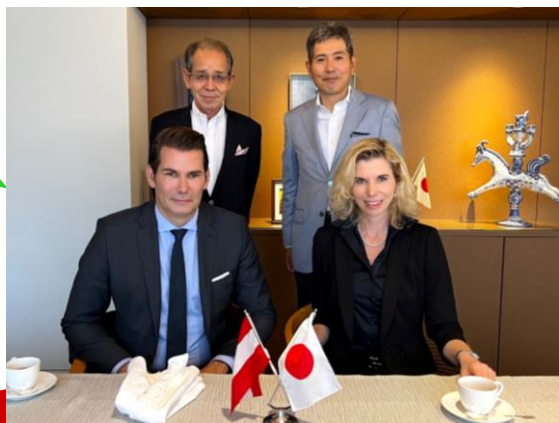
広島オーストリア協会の皆さまへ

昨年10月に、駐日オーストリア全権公使として着任致しました、シュテファン・ハイスラーです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、2019年に、オーストリア外務大臣の一行とともに初めて日本を訪れました。その際、日本社会における細やかな心配りや、忙しい現代社会においても礼儀作法が重んじられていることに、深い感銘を受けました。古い文化を保ちながらもダイナミックに変化する国、日本に赴任できたことは、私と妻のカティアにとって、とても嬉しいことでした。

今年の8月には、毎年世界の注目を集める広島での平和記念式典に、駐日オーストリア臨時代理大使として夫妻で出席いたしました。式典では、子ども達の「平和への誓い」が読み上げられ、広島が「核兵器のない世界」という共通の目的を達成するための、世界の要となる都市であることを、私たちの心に強く印象づけました。

今年6月、核兵器禁止条約が発効して初めての締約国会議がウィーンで開かれました。この会議が核兵器の禁止に向けて、潜在的な転換期になるよう期待されます。



大辻名誉領事（後列左）三吉次期名誉領事（後列右）と共に



平和記念公園内原爆死没者慰霊碑への献花
シュテファン・ハイスラー公使 カティア・ハイスラー公使夫人



追悼の祈りに包まれた広島での時間は、穏やかさと活力、古さと新しさ、異文化を受け入れる協調性が非常に心地よく感じられ、私が以前から持っていた、日本の良いイメージを改めて体験する旅となりました。

短い滞在時間でしたが、大辻名誉領事、次期名誉領事の三吉 広島オーストリア協会会長（広島ホームテレビ社長）、アシスタントの佐々木様にご挨拶する機会もあり、大変有意義なひと時を過ごすことが出来ました。広島市の企画で、お好み焼きクッキングにもチャレンジしたので、その時の写真もご紹介いたします。

今後の抱負として、私としてはもちろん、オーストリアと日本の深い友情をあらゆる分野で発展・深化させたいと考えております。近い将来、広島オーストリア協会の皆様にも、直接ご挨拶できますことを、妻のカティアと共に楽しみにしておりますので、皆様におかれましては、今後とも引き続きオーストリアをご支援下さいますようお願い申し上げます。



お好み焼きクッキング体験の様子

新型コロナウイルスの感染状況に伴い本年度も参集を中止し、議案については書面決議を行いました。
提出した事業計画・予算等の諸議案は、すべて承認議決されました。

2021年度事業報告

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、理事会・総会は書面決議とし、通常の事業は全て中止しました。

2022年度事業計画

8月
ビアホールの会 中止

11月3日（木・祝）
広島交響楽団「音楽の花束コンサート〈秋〉」鑑賞優待

12月6日（火）
クリスマス例会（リーガロイヤルホテル広島）

2022年度役員

（2022年6月29日現在）

役職名	氏 名	現 職
会 長	三 吉 吉 三	(株)広島ホームテレビ 代表取締役社長
副会長	尾 木 朗	(株)広島銀行 代表取締役専務執行役員
〃	松 本 憲 二	マツダ(株)コーポレート 業務本部長
〃	光 井 安 子	音楽家
専務理事	宮 垣 信 也	(株)広島ホームテレビ 取締役総務局長
理 事	西 田 敏 啓	公財) ひろしま国際センター 専務理事 兼 事務局長
〃	小 田 宏 史	(株)もみじ銀行 頭取
〃	北 村 浩 司	(株)中国新聞社 専務取締役営業本部長
〃	山 口 真 司	広島エフエム放送(株) 代表取締役社長
〃	熊 平 雅 人	(株)熊平製作所 代表取締役
〃	シュテファン・ ハイスラー	駐日オーストリア大使館 公使
〃	小 泉 崇	公財) 広島平和文化センター 理事長
〃	松本茂太郎	福山ガス(株) 代表取締役社長
〃	末 松 英 治	広島テレビ放送(株) 取締役
〃	宮 迫 良 己	(株)中国放送 代表取締役社長
〃	箕 輪 幸 人	(株)テレビ新広島 代表取締役社長
〃	塚 崎 修 治	(株)広島ホームテレビ 専務取締役
〃	吉 中 康 彦	夢未来企画(株) 社長
監 事	高 場 敏 雄	中国電力(株) 代表取締役副社長執行役員
〃	徳 永 明 彦	広島信用金庫 地域交流部長

運営委員

役 名	氏 名	現 職
委 員	阿 部 秀 造	(株)阿部洋酒店社長
〃	内 海 輝 雄	オフィスU代表
〃	広 中 正 紀	(株)もみじ銀行 営業統括部長
〃	山 縣 透	公財) ひろしま国際センター交流部長 兼 総務課長
〃	小 坂 哲 也	広島国際大学教授
〃	川 島 誠	マツダ(株)コーポレート業務本部総務部 地域リレーショングループ主幹
〃	向 久 保 亨	公財)広島平和文化センター 国際部国際市民交流担当部長
〃	田 中 勝 邦	広島カナダ協会・広島県日韓親善協会 理事

特別役員

役 名	氏 名	現 職
名誉会長	橋 本 宗 利	(株)広島ホームテレビ参与
〃	大 辻 茂	(株)広島ホームテレビ参与
顧 問	川 野 祐 二	エリザベト音楽大学学長
〃	岸 田 文 雄	衆議院議員（内閣総理大臣）
〃	湯 崎 英 彦	広島県知事
〃	池 田 晃 治	広島商工会議所連合会会頭
〃	松 井 一 實	広島市長

■ News from 在広島オーストリア名誉領事館

2022年8月5日 駐日オーストリア公使ご夫妻来広

平和記念式典に参列されるためハイスラー公使ご夫妻が、初めて広島を訪問されました。大辻名誉領事、三吉広島オーストリア協会会長も挨拶され、平和への思いや、両国における友好の絆の尊さについて言葉を交わされるなど、大変有意義なひと時となりました。様々な県内観光の魅力についてご紹介し、伝統工芸品「熊野筆」を贈呈しました。



広島県出身・ウィーン在住の三島 良子さんに現地での暮らし、音楽家としてのご活動について、ご寄稿いただきました。



ウィーン わが夢の街 三島 良子

2022年夏、今年も青空の下、アイスクリーム屋さんの前ではたくさんの老若男女が、2段3段(時には5段!!)に重なったボリュームたっぷりのアイスを手をしています。

旧市街には走る馬車の音が響き、有名老舗カフェには長い行列、シュテファン寺院も溢れかえるほどの人でいっぱいです。コロナ以前に比べてアジア人は圧倒的に少ないけれど、観光客はあちこちからここウィーンへやってきている一方、ウィーンに住む友人達は、フランスやスロベニア、ギリシャなどへ早々に休暇へ出かけていきました。

カフェに座り、夏のお決まり“ヴィーナーアイスカフェ”(バニラアイスと生クリームがのったコーヒー)を注文して、通りを行き交う人達を眺めていると、コロナもロシア・ウクライナ間のことも、まるで存在していないかのような錯覚を抱いてしまいますが、目の前を通り過ぎたバスに一瞬にしてそんな幻想から引き戻されてしまいました。



ヴィーナーアイスカフェ
「カフェリッター」❤️
コーヒーに必ずグラスに入ったお水が
付いてくるのも、ウィーンのカフェの
特徴ですね!

有名なカフェツェントラル前
2022年8月

満員の乗客の顔はすっぽりとマスクで覆われていて、外のパラダイス的な光景とはじつに不釣り合いです。(オーストリアではウィーン州のみ、今も公共の乗り物でのマスク着用義務が続いています。)覆面禁止法でマスクや顔の一部を隠すことを禁じられていた頃を思うと、世の変わりように驚きます。

私がウィーンに移り住んだのは2018年の初夏。結婚を機に“人生の舞台をウィーンへ!”と一大決心の末、スーツケース2つを手にも案外身軽に、まるでちょっと旅に出るように日本を発ちました。それは、家族や友人、お世話になった恩人達から遠く離れて



夫と昨年生まれた娘と

しまうことへの心の整理がその頃はまだついていなかった故でもあるし、ウィーンに住むことが私にとって自然な流れだったから…かもしれません。

時は2005年まで遡りますが、当時、東京芸大のピアノ科を卒業間近だった私は、試験などを終えてぽっかり空いた時間に、“そうだ!ヨーロッパへ行こう!”と、わりと行き当たりばったりで、ロンドン、パリ、ウィーン、ザルツブルク、ミュンヘンと旅をしました。

どこも初めて訪れる土地で、それぞれに感動がありましたが、とりわけウィーンでの体験は忘れ難く、それこそが今の私に続く“運命の始まり”だったように思います。

極寒の2月、凍えそうになりながら、どんよりとした冬の空に聳え立つシュテファン寺院をまずはじめに拝み、そこから小径(こみち)を歩いていた時、思わず息を呑みました。

昔の人の気配とでもいうのか、時代を超えている人々がこの通りを、今、歩いている、まるでそれが目に見えているかのような、そんな感覚が私を捉えたのです。なんて素敵な街なの!!と一気に魅せられ、それ以来、私にとってウィーンは特別な場所となりました。



観光客のいない静かな
シェーンブルン宮殿
2020年8月



美しき青き旧ドナウ川

その後、ザルツブルクやツヴェッテルでのピアノの講習会に参加し、2009年からは毎夏、ピアニストのイェルク・デームス氏に学ぶため、オーストリアで過ごしてきました。

日本でもウィーン三羽鳥（グルダ、バドゥラ＝スコダ、デームスのお三方）の一人として親しまれていたデームス先生の弾くモーツァルトやシューベルトからは、ウィーンの香りが溢れていたし、ユーモアの効いたジョークやお話は、まさにウィーン風！かつてクリムトやマーラーが過ごしたザルツカンマーグートの湖の一つ、アッター湖を見下ろすお山にあった先生の山荘では、オーストリアの自然の美しさ、長閑さ、嵐の凄まじさ、月の光だけが注ぐ夜など、感じるもの全てが“芸術”で、それらは音楽に直接結びついていくだけでなく、私の体や心を芯から生き生きとさせてくれるものでした。

こうしてどんどんウィーン、そしてオーストリアを大好きになって、今ここで暮らしていること、全ては“あの小径”から始まったのではないかと思います。

この2年半ほど続くコロナ禍は、この街、そして私自身の中にも、新たな発見が多くありました。ひっきりなしに飛んでいた飛行機が姿を消し、外出制限で静まり返った街は、ウィーン特有の風がびたっと止んでしまったような、まるで瀬戸内の風のようにでした。



デームス先生と50年以上共演されてきたヴァイオリニスト、ルッツ・レスコヴィッツ氏とのコンサート



シューマン通り

シューマンガッセ30
(シューマン通り30番地)



教会でのコンサート

デームス先生と



山から見下ろすアッター湖

外出制限下でも許されていたのは、散歩。おかげで私も歩く習慣ができました。歩くと土地勘も磨かれるし、素敵な小径を見つけたり、良い景色に出会ったり、いいことづくめ！

作曲家のロベルト・シューマンにちなんだシューマン通りなんていうのも発見したりして、またお気に入りの場所が増えました。劇場などは長い間再開できずにいましたが、その間、オンラインでオペラやコンサートを配信しながら、聴衆たちも一緒になって、復活の時を願って待ちました。

政策に疑問を抱く人々は声をあげて毎週末のようにデモをし、真実とは、自由とはなんだろうかと考えるきっかけになりました。

この夏はヨーロッパを襲う熱波で、ウィーンも6月初旬から猛暑続きでしたが、そろそろ秋の気配がほんのりと漂い始めてきています。新聞の見出しには、9月から始まる学校関係のコロナ政策案や、この秋から2倍はおろか、3倍4倍にまで跳ね上がるのではないかとされているガス代、止まらない物価高など、あまり嬉しいニュースは並んでいませんが、オーストリアの人達の持ち前のユーモアを見習って、私もこの容易でない局面を乗り切っていきたいと思っています。

2022年8月18日 ウィーン
三島良子

はじめての海外取材でウィーンへ



広島ホームテレビ ニュースグループ 山口 和政

6月21～23日に国連で行われた核兵器禁止条約の締約国会議を取材するため、約10日間の日程でウィーンへ行きました。

道路には車やバスと一緒に馬車が走っていたり、路上にはパラソル付きのカフェがあるなど“いちいち”オシャレ。モーツァルトやベートーヴェンらが過ごしたことから「音楽の都」と呼ばれる通り、街にはバイオリンを弾く人の姿もみられました。まさに「Theヨーロッパ」といった感じで、見渡す限り映画のセットのようでした。



ウィーン旧市街の街並み

初めての締約国会議の場となった国連は空港よりも検査が厳しく、金属探知機やX線検査場を毎日通りました。

ウィーンでは日本で放送する毎日のニュースを出稿しながら、8月6日の原爆の日に放送した特別番組「テレメンタリー2022「それでもボクらは核廃絶」」の取材を同時並行で進めました。

密着取材した福山市出身の高橋悠太さん(21)は、東京の大学に通いながら核廃絶を考える活動を続けています。現地では英語を巧みに操りながら、会議のサイドイベントとして被爆者の証言会を開いたり、各国の代表に声をかけるなど、日本の若者代表として積極的に動く姿をカメラで追い続けました。



外務省課長に直談判する高橋悠太さん



高橋さんにインタビューする私

取材に追われる中、何度も食べたのはウィナーです。ウィーンが語源という通り街のいたるところにある屋台では、鉄板でとろとろ焼かれています。少し固めのパンに挟み、ケチャップとマスタードを合ませます。皮はパリッと、中はジューシーで、街の雰囲気との相乗効果もあり本場の味を実感しました。



鉄板に並ぶウィナー

食べるチャンスはありませんでしたが「Running Sushi」という店があり、ヨーロッパでも寿司が回っていたのは意外でした。

緯度が高いオーストリアは、午後9時を過ぎても明るく1日中昼間のようでした。気温は30度を超える日が続きましたが、日本のような湿気は感じず過ごしやすかったです。



ウィーン国連前にて

最終日は飛行機の出発までに少し時間があつたので、オーストリアを代表する観光地で世界遺産のシェーンブルン宮殿へ。

ウィーン中心部からは地下鉄で20分ほどの場所にあります。乗ったのが古い車両だったようで、降りる時は手でドアを開ける仕組みとなっていて1駅通り過ぎるハプニングがありましたが、何とか到着しました。宮殿は端から端まで約180mもある広大なバロック建築で、華やかな黄色の外観に圧倒されます。マリー・アントワネットが幼少期を過ごした宮殿で、アニメ「ベルサイユのばら」を全話見たことがある身としてヨーロッパの歴史に少し触れたような気がしました。また、冷戦中にはアメリカのジョン・F・ケネディとソ連のフルシチョフが対談をしたことがあるそうで、世界がつながっていることを実感しました。

終わってみればあっという間の10日間でした。オーストリアについては帰国してから知ったことも多く、もっと街をまわれば良かったと少し後悔が残ります。「初めての海外」だったため取材に気持ちと時間を取られすぎていたのも、次はプライベートで行き本場のザッハトルテや国立歌劇場を楽しみたいと思います。



世界遺産 シェーンブルン宮殿



シュテファン大聖堂前で記念撮影

テレメンタリー2022
番組動画のご案内

それでもボクらは核廃絶



検索

インターネットで検索いただくか、
以下QRコードからご覧ください。

YouTube
動画リンク



イベントのご案内 Event Information



3年ぶりに 『クリスマス例会』を開催します



日時：2022年12月6日(火) 18:00～

場所：リーガロイヤルホテル広島（広島市中区基町6-78）

会員の皆様楽しんでいただけるよう、只今準備中！
ヴァイオリニスト鈴木千晶さんとチェリスト吉田正子さんにも
ご出演いただき、素敵な演奏で会に華を添えていただきます。

※コロナ感染状況により開催について変更となる場合があります。
ご了承ください。





協会会員優待価格のご案内

活動の一環として、会員の皆様広島交響楽団の名曲コンサート「音楽の花束～秋～」の鑑賞優待のご案内をさせていただきます。

ザルツブルクに生まれ、オーストリアで活躍したモーツァルト、更に、ウィーンに移住し生涯を過ごしたブラームスの名曲が披露されます。この機会にぜひ鑑賞ください。

音楽の花束～広響名曲コンサート ～秋～

11/3

【木・祝】 **15:00開演 (14:00開場)**

©Felix_Broede

©尾形正茂

指揮：沖澤のどか ヴァイオリン：玉井菜採

会場：広島国際会議場フェニックスホール

出演：指揮：沖澤のどか ヴァイオリン：玉井菜採

曲目：モーツァルト：ディヴェルティメント変ロ長調K.137
モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第4番ニ長調K.218
ブラームス：交響曲第2番ニ長調作品73

協会会員 優待価格

S席3,300円・（ペア5,000円）・A席2,300円

※席は広島交響楽団の一任となります。※B席のご案内はありません。
※未就学児のご入場はできません。

お申込をご希望の場合は、2022年10月21日（金）までに、当協会事務局へ電話・FAX・メールにてご連絡ください。申込方法についてご案内いたします。

広島オーストリア協会 事務局
TEL(082)221-4964 FAX(082)221-4905
Email : austria@home-tv.co.jp

Editor's Note

編集後記



今年2月より人事異動により事務局長が寺尾に代わりました。
ウィーンにはこれまで3度訪問。初回は卒業旅行で立ち寄り、ウィーン国立歌劇場に当日並んで立見席の手すりにスカーフを巻いてオペラ鑑賞。2度目は1994年の国連デー平和コンサートに参加。3度目は2019年のウィーン楽友協会での日奥修好150周年記念「平和のシンフォニー」に老父と参加し「第九」を歌いました。
その際に足を延ばして訪れたザルツブルクやハルシュタットの美しい景色は今も忘れられません。オーストリアの魅力を会員の皆様と分かち合い、楽しく充実した活動となるよう尽力して参りますので、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。
ご意見やご希望などがありましたらご遠慮なく事務局までご連絡ください。
(事務局長 寺尾尚子 記)